

お申し込みについて

参加対象者

市町村長、自治体職員、一般参加者等

参加形態

会場参加またはオンライン参加

参加費

11/9 サミット	会場	基調講演・分科会:無料 市町村長交流会:6,600円 (税込・当日現金)
	オンライン	無料
11/10 現地視察	半日コース	無料
	1日コース	無料 (1日コースは昼食代各自負担)

注意事項

■一般参加者の方へ

- 市町村長交流会・現地視察については、市町村長等自治体関係者のみの募集となります。
- 会場参加枠には限りがあるため、自治体関係者の方を優先してご案内いたします。
一般参加者の方には、オンラインでのご参加をお願いする場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■自治体関係者の方へ

- 現地視察については、参加人数に限りがございます。
申し込み多数の場合は、参加いただけない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
申し込み締切後、10月末までにメールにて結果をご連絡いたします。

お申し込みから当日までの流れ

1

専用サイトよりお申し込みください

専用サイトは下記URLまたはQRコードから
<https://app.itto.co/summit2026-niigata/>
※手話通訳や要約筆記が必要な方はお申し出ください



申込締切日

2026年 締切日延長
11月5日(木)

2

お申し込み後、10月末までに参加証等が送付されます

会場
参加

お申し込みの際に
ご登録いただいたメールアドレスに
参加証等をお送りします。

オンライン
参加

お申し込みの際に
ご登録いただいたメールアドレスに
当日のURLをお送りします。

3

サミット当日、会場・オンラインにて受付

会場
参加

事前にメールでお送りしている参加証を
出力したもの、またはスマートフォン等の
画面を受付でご提示ください。

オンライン
参加

事前にメールでお送りしている
URLからアクセスしてください。

※申込等の個人情報については、本サミットに係る目的以外での利用はいたしません。

専用サイトよりお申し込みできない場合の 申込窓口

「全国市町村長サミット2026 in 新潟」事務局
(株式会社 ツクルス)

TEL **03-6914-6004**
(平日10時～18時まで)

E-mail municipal-summit2026@itto.co

その他お問い合わせ先

総務省
地域力創造グループ
地域振興室

TEL **03-5253-5534**

地域力の強化に向けた

全国市町村長サミット 2026 in 新潟

2026
11/9 月・11/10 火

ハイブリッド開催 会場／オンライン

参加市町村長
募集



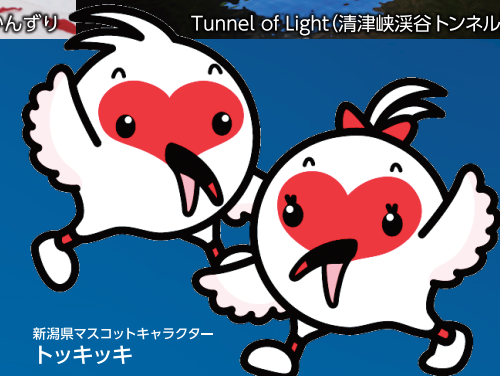
9日
会場

朱鷺メッセ
新潟コンベンションセンター
〒950-0078 新潟市中央区万代島6-1



主催 総務省・新潟県

後援 全国市長会・全国町村会・新潟県市長会・新潟県町村会



新潟県マスコットキャラクター
トッキッキ

全国市町村長サミット 2026 in 新潟

人口減少・少子高齢化の進行や地域コミュニティの脆弱化などの課題に直面している中であっても、持続可能な活力ある地域社会を実現するため、これまで以上に官民連携等による地域活性化を図ることが求められています。このため、全国の市町村長等が一堂に会して議論・交流を行うことを通じて、地域活性化の一層の進展・普及を図ることを目的に、「全国市町村長サミット2026 in 新潟」を開催いたします。開催にあたり、全国の市町村長、自治体職員や市民の方々など一般の参加者を募集いたします。

13:00 - 13:20 開会挨拶

総務省挨拶／新潟県挨拶

13:20 - 14:20 基調講演

多様な主体の参画による「縮充」のまちづくり
作野 広和 島根大学教育学部 社会科教育専攻 教授

14:40 - 17:20 分科会

2つのテーマの分科会に分かれ、各分科会のコーディネーターと発表される市町村長の方々に、取組事例の発表と意見交換を行っていただきます。

第一分科会	地域おこし協力隊	第二分科会	関係人口を巻き込んだ、地域の暮らしを守る取組
コーディネーター	稲垣 文彦 公益社団法人ふるさと回帰・移住交流推進機構 渉外担当副本部長 博士(工学)	コーディネーター	中島 みき 面白法人カヤック 執行役員 ちいき資本主義事業ユニット長
事例発表者	第1部 14:40-15:50 神田 一秋 新潟県阿賀町長 菅原 茂 宮城県気仙沼市長 第2部 16:10-17:20 木下 喜人 山梨県丹波山村長 門間 雄司 兵庫県豊岡市長	事例発表者	第1部 14:40-15:50 都竹 淳也 岐阜県飛騨市長 山崎 出 高知県馬路村長 第2部 16:10-17:20 久保田 郁夫 新潟県糸魚川市長 篠田 洋司 山口県美祿市長

17:40 - 18:50 市町村長交流会

市町村長に意見交換、情報交換をしていただく交流会を実施します。

交流会は、参加費として6,600円(税込・当日現金)をいただきます。

基調講演 多様な主体の参画による「縮充」のまちづくり



さく の ひろ かず
作野 広和 様 島根大学教育学部 社会科教育専攻 教授

1968年島根県松江市生まれ。広島大学助手、島根大学准教授を経て、2014年より現職、2024年度より教育学部附属学校部長。専門は農業・農村地理学、過疎・中山間地域論。総務省過疎問題懇談会構成員、兵庫県地域再生アドバイザー、広島県集落対策アドバイザー、島根県中山間地域研究センター客員研究員、経済地理学会評議員、中四国都市学会理事、島根地理学会副会長等。島根県・兵庫県内6カ所に研究室の分室「ラボ」を設置し、住民との協働による地域づくりを展開中。

第一分科会 地域おこし協力隊



いな がき ふみ ひろ
稲垣 文彦 様 公益社団法人ふるさと回帰・移住交流推進機構 渉外担当副本部長 博士(工学)

1967年新潟県長岡市生まれ。長岡技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程修了。専門は災害復興と地域づくり。外部人材を活用した新たな内発的発展論を展開し、地域づくりにおける住民の主体形成プロセスを研究。国の地域おこし協力隊、集落支援員、関係人口の施策等の普及、人材育成等に尽力。他に総務省地域力創造アドバイザー、地域おこし協力隊サポートデスクスーパーバイザー、地域おこし協力隊全国ネットワークスーパーバイザー、地域おこし協力隊アドバイザー、公益社団法人中越防災安全推進機構理事、新潟県防災会議委員等。主な著書として「震災復興が語る農山村再生 地域づくりの本質」等。

第二分科会 関係人口を巻き込んだ、地域の暮らしを守る取組



なか じま
中島 みき 様 面白法人カヤック 執行役員 ちいき資本主義事業ユニット長

大阪市生まれ。長野・千葉・東京・熱海・鎌倉など様々な地域で暮らす。広告代理店を経て、2006年オーバーチュア株式会社、2008年よりヤフー株式会社に入社。営業推進本部長などを経て、2018年よりPayPay株式会社の立ち上げに参画し「100億円あげちゃうキャンペーン」を推進。2019年カヤックLiving代表取締役として参画、移住スカウトサービス「スマウト」の事業成長を牽引。2020年より面白法人カヤック執行役員 ちいき資本主義事業ユニット長として「スマウト」「まちのコイン」等を統括。国土交通省・内閣府などの地方創生関連委員会委員を歴任。3拠点生活を経て、現在鎌倉在住。

2026年11月
9 月曜日
サミット

視察の流れ ※参加人数により視察順が入れ替わる可能性があります。
1日コース・半日コースからお選びください。(1日コースは昼食代各自負担)

8:30 出発(8:30朱鷺メッセ⇒8:50新潟駅)

10:00 - 11:40 ① シティホールプラザ アオーレ長岡
② 米百俵プレイス ミライエ長岡

11:40 - 13:00 1日コース 昼食・移動
半日コース 終了(11:40長岡駅⇒12:50新潟駅⇒13:20新潟空港)

13:00 - 14:40 ③ 燕市産業史料館
④ うさぎもちハレラテつばめ

14:50 - 15:30 ⑤ 燕三条地場産業振興センター

15:30 - 17:00 1日コース 終了(15:40燕三条駅⇒16:30新潟駅⇒17:00新潟空港)

1 シティホールプラザ アオーレ長岡(長岡市)



5,000人を収容できるアリーナ、開放感のあるナカドマ(屋根付き広場)、そして市役所が一体となった全国初の複合型施設です。大通りに突然現れる巨大空間は、まちを行き交う人々の注目を集めます。木の温もりにあふれた自由空間が、市民協働と交流の拠点として、様々な活動の舞台となっています。「アオーレ」は、長岡地域で「会いましょう」を意味する方言。様々な人と人、人とモノの出会いが生まれるという期待が込められています。

2 米百俵プレイス ミライエ長岡(長岡市)



長岡が誇る歴史と文化を継承し、「人づくりと産業振興」を総がかりで支える地方創生の拠点として令和5年にオープンしました。この地は、戊辰戦争からの復興に取り組んだ長岡藩大参事・小林虎三郎が、支藩から送られた救援米を活用して開校した国漢学校の跡地です。「米百俵の精神」が息づく長岡のまちづくりの原点とも言える場所であり、公立図書館「互尊文庫」や産学連携拠点「NaDeC BASE」を備えています。市民や学生、研究者、企業人など多様な人々が集い、学びと交流を通じて新たな価値を創出しています。令和8年11月14日には中高生専用スペースなど新たな機能を設置し、グランドオープンを予定しています。

3 燕市産業史料館(燕市)



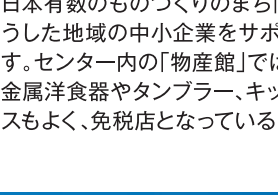
燕市の江戸時代から続く伝統技術である鋳造銅器(ついきどうき)やキセル、彫金などの工芸技術をはじめ、金属洋食器、金属ハウスウェアなど現在の燕のものづくりを、見て・体験することができる博物館です。歴史の展示以外にも、日本有数のキセルコレクションや世界のスプーン館、人間国宝・玉川宣夫(たまがわのりお)氏の作品など見どころ満載。体験工房館では、純銅タンブラーの鋳目(つちめ)入れやチタン製スプーンの酸化発色など金属を扱ったものづくり体験ができます。ミュージアムショップでは、職人が手仕事で仕上げた製品やスタッフが作ったお土産品のほか、企画展開連商品を展示・販売しています。

4 うさぎもちハレラテつばめ(燕市)



悪天候の日も猛暑の日も、こどもたちが全身を動かしてあそべる場所が欲しい、という市民からの声に応え、屋内こども遊戯施設として令和7年9月6日にグランドオープンしました。本施設は「体格や成長、興味に応じた遊びで、好奇心とチャレンジ精神を育む」、「五感を刺激する空間で創造力・表現力を育む」、「障がいのある子もない子もみんな一緒に遊べるインクルーシブなデザイン」といったコンセプトを基に設計されました。また、何度来ても楽しめるよう遊具の定期的な入れ替えや県内最大級のネット遊具を設置するなど、こどもはもちろん、大人も一緒に楽しむことができる施設です。

5 燕三条地場産業振興センター(三条市)



日本有数のものづくりのまち「燕三条」は、金属加工をはじめとした中小企業の集積地となっており、当センターは、こうした地域の中小企業をサポートするための技術支援や海外展開支援、マーケティング支援などに取り組んでいます。センター内の「物産館」では、マーケティング支援の一環として、当地域で製造された包丁をはじめとした刃物類・金属洋食器やタンブラー、キッチンツール等を販売しています。道の駅として燕三条駅や三条燕インターからのアクセスもよく、免税店となっていることもあり、“made in 燕三条”製品を求めて国内外から多くの方が訪れています。